

TSC「サッカーを楽しむ会」、青経連トップの座に!

去る7月14日(土)、鳥取パードスタジアムにおいてJFLの前座試合が行われた。対戦カードは、青経連最強との呼び声高い米子商工会議所青年部と、ユニフォームはカッコイイものの弱小チームであることは否めない、我々西部青年中央会である。

戦前の下馬評どおり、青年部の圧倒的なボール支配の下に苦戦を強いられたが、守護神・GK夏野選手の度重なるファインセーブと相手のシュートミスにも助けられ、前半を0-0で折り返した。

後半に入ると体力の衰えが見え隠れし、両チームとも動きが鈍り始める中、新入会員の内田(和)選手だけが軽快に動き回る。ロートル選手達はさぞかし羨ましかったことであろう。お互い攻撃に精彩を欠いたまま膠着状態が続くかと思われた頃、相手DFのバックパスがゴールを襲った。相手GKはなんとキャッチしたものの、主審の判定はゴールイン! 結局このオウンゴールが唯一の得点となり、中央会は青年部を零封したのである。

その後両チームはJFLの試合(SC鳥取X横河FC)を観戦したのであるが、場内販売のビールのおよそ半分(あるいは半分以上)を我々中央会が消費し、フーリガンと化していたことは言うまでもない。

〈試合結果〉

TSC 1-0 米子商工会議所青年部

〈MVP〉

夏野慎介選手(TSC)

※TSC「サッカーを楽しむ会」は8月1日の役員会にて承認され、正式に発足いたしました。秋にはフットサル大会に出場予定です。プレーに自信のない方でも、どうぞご遠慮なくご参加ください。一緒に楽しみましょう!!

(広報: 尼子 健)



言わしてごしない Part 2

色々なところで開催される講演会等に出かけるが、後ろの方から席が埋まっていくのを何時も不思議に思っている。

せっかく講師がお話をして下さるのだから、前の席の方が良く聞こえるし、講師の表情から講演内容の深いところを読み取ることが出来る。それに講師から見て目の前の席が空いていて後ろの席から聴衆が埋まっていくのは自分の話には本当は興味が無いが義理で出席するというイメージを持たれるのでは無いだろうか。

やはり目の前に熱心に聞いている人がいれば話す方にも力が入ると思う。中央会の例会に出席すると会場には既に委員会別に立て札が立っている。自分の委員会の立て札の立っているテーブルに座って例会が始まるのを待つ。暫くすると司会の方が「前の方へお詰めください」と決まり文句を言われる。別に委員会別に並んで例会の講演を聞く必要は無いと思うので、いっそ、例会会場へ入室した人が前から詰めて行った方が良いのではないかと思う。

それから講師の話の途中でどうしても中座しなければならないこともあるが、退室時に講師に一礼等は常識的な礼儀であると思う。こちらが頼んで忙しい中を講師先生に来て頂いたにもかかわらず、頼んだこちら側の者が中座するのだからせめて一礼は必要と思う。遅れて入室する時もしかり、一礼して入室するのが礼儀と思う。

我々にとって例会は毎月あるわけだが、講師先生からしてみれば中央会でお話されるのは一生一度のことかも知れない。まさに一期一会の機会に講師先生には「中央会とは凄い会だ!」と感じて頂きたい。

些細な気配りやマナーが会全体のイメージとして伝わることを改めて肝に命じたい。

(広報: 野川誠司)

9月役員会報告

9月定例役員会が平成13年9月3日(月)、米子食品会館に於て開催されました。当日の主な議題は、次の通りです。

- (1) 9、10月例会開催の件
- (2) 中小企業団体全国大会参加の件
- (3) 会員増強の件
- (4) OB交流会開催の件

※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

9月例会案内

と き 平成13年9月17日(月) 19:00~
 ところ ホテルサンルート米子
 講師 有限会社デジタルネットプラン 代表取締役 長井英夫氏
 演題 「企業に活かせるIT情報の現状と将来」

コピーをして名簿にお貼り下さい

(Newカマーズ)



あ だ ち ゆ た か
足立 豊 A型
 (株)山陰合同銀行米子支店 支店長代理
 銀行業
 〒683-0815 米子市東倉吉町30
 TEL 32-3711 FAX 32-3240
 (KT)
 H13.08入会
 (推薦者) 堀田(敬) 自宅 米子市河崎1134-5
 中澤(直) 〒683-0852 S.38.4.22 TEL.29-0359

(コメント)

この度入会させていただくことになりました足立豊です。よろしくお願ひいたします。最近の生活におけるテーマは「平々凡々に自分らしく生きる」と思っています。他人の評価を気にすることなく行動していこうと思っています。私の職場である銀行業は超非常識な業界であると認識していますが、今後は常識ある企業こそが、それぞれの業界で生き残ってゆくのではないのでしょうか? 幅広く青年中央会の皆様のご意見を教えていただきたいと思ひます。

(Newカマーズ)



まつ も と ま さ ひ こ
松本 政彦 O型
 (株)鳥取銀行米子支店
 銀行業
 〒683-0802 米子市東福原1丁目1-15
 TEL 33-1411 FAX 39-0158
 (KT)090-3376-4582
 H13.08入会
 (推薦者) 堀田(敬) 自宅 境港市波町914
 中澤(伸) 〒684-0072 S.44.8.12 TEL.45-0998

(コメント)

新入会員の松本と申します。株式会社鳥取銀行米子支店に勤務しております。地域で大変活躍されておられる会員・OBの皆様を前にして少し気後れしている、というのが正直なところです。「怒らず・決めつけず・諦めず」を信条に何事も「ガッツ」で頑張りたいと考えております。ご迷惑をお掛けする事もあるかとは思いますが、皆様との交流の中で多くの事を学べたら幸いです。よろしくお願ひいたします。

所属企業住所変更のお知らせ

総務委員会 松下文雄会員
 旧 境港市清水町766-8
 新 境港市東雲町5-2
 電話・FAX番号 変更なし

天声 後 語

民放に習ったのか、NHKでも夏休みになると、ラジオで「こども科学電話相談」を放送する。ここ数年、仕事をしながらそれを聴くのが、高校野球とともに私の「夏の楽しみ」である。似たような質問(「宇宙には果てがあるか?」「カブトムシのじょうずな飼ひ方」など)が毎日のようにある一方、ハッとさせられる質問も少なくない。不思議を感じる能力や、考え方の角度の鋭さは、相談員である専門家の先生を、ときに困らせる。これは、日常に疑問を感じなくなった自分への叱咤でもある。仕事のやり方、こどものこと、中央会のあり方、新聞をはじめマスコミで取り上げられる社会的な事件など…もう一度考え直してみる、反対意見にも耳を傾ける、常識はずれとはなつけないでひとつの考えとしてストックしておく。こうした作業こそが再構築の第一歩ではなからうか。

ともあれ、番組はちょうど質問集中砲火の時期にあたるこどもの父親にとっては、この上ない力になる。

Handsome

発行人: 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 岩田慎介 編集責任者 萬田寿夫 印刷所 東京印刷(株)

8月例会

平成13年8月17日(金) ホテルサンルート米子にて平成13年度役員が担当する例会が執り行われた。

綱領唱和の後、岩田会長の挨拶があり、先般行われたトライアスロンボランティアの労をねぎらう感謝の気持ちを述べられた。また、小泉総理大臣の靖国神社参拝問題に対し、先に片山鳥取県知事のプライオリティ(優先順位)の話を用いられ、環日本海経済交流圏の中で我々何をすべきかをプライオリティを意識しながら進めて行くべきだとお話された。

続いて新入会員2名のバッジ授与式、連絡事項と進行し、委員長タイムでは久古総務委員長が委員長として「楽しめる行事を企画したい」と述べられた。

そして山本修先生の「わたしのバンド人生」へと移った。先生の仕事はフリーのオールラウンドプレーヤー、パーカッショニストという聞き慣れないもので、現在は物まねのコロケさんと舞台の最中ということだが、その合間を使ってのご講演となった。お話は小学校3年生の時にブルーコマツに感動した友人に感化され、両親に頼み込んでドラムセットを買ってもらい、常にドラムのことを考えていたことや中学の音楽の先生に感銘を受けたこと。中学生時代からラジオ番組に出演したりしていた話迄おんだ。

高校生時代は名門レインボー jazzオーケストラに呼んでもらったり、カラオケの無かった当時、皆生温泉でカラオケ演奏し、バイト代として5000円買った思い出等を披露された。

音楽イベントで個人賞を貰ったころからプロを意識し、大阪の音大時代に小野寺たけし氏の演奏にカルチャーショックを受け、戴いた名刺だけを頼りに東京迄訪ねた。何とかこれでやりたいと思ひ、小野寺氏の楽器を預かり、小野寺氏が大阪で演奏される時はそこに行つて見学もした。そして小野寺師匠に頼んで上京し、東京キューバンボーイズに入った。師匠の口利きで無試験で入ったもののレベルの高さについていけず登校拒否状態になってしまったり、本番中にバンドマスターが物を投げて来たり、「殺すぞ!」と言われたりで大変激しかった。

尊敬しているちあきなおみさんにクリスマスショーの演奏に来てくれと請われたが別の予定が入っていた為断られたところ、ショー自体を中止にされたエピソード等も聞かせて頂いた。

会場ではドラムをはじめ、キューバの打楽器ボンゴとコンガ、ティンパレス、ギロ等の迫力ある生演奏も聞かせて頂いて、大変楽しいご講演であった。

(広報: 野川誠司)



温故知新

初代会長の永瀬正治先輩に設立当時の話をお聞きました。

◆青年中央会設立に至る経緯

昭和50年当時米子青年会議所に在籍しており、卒会目前の40歳の頃

「これで青年を剥奪されるんだ」という寂しさが強くこみ上げてきました。また当時第1次オイルショックにより、不況は一層その深刻さを増し、スト権ストというような国民不在の無法状態、また大企業倒産が相次ぐなか、何とかこんなもやもやした時代を打破することができないのかと考えておりました。その頃、親会の副会長でいらつちやつた中村実さんにご指導いただき、設立へと動き出したわけです。何だか不況という面でも現在と時代背景が似ているように思ひます。

◆当時の活動状況はいかがでしたか

設立当初は会員90余名。今考えてもいいかげんなものでして、2ヶ月に1度の例会でした。おかしいことに、例会を1回さぼると4ヶ月会えないことになるんですね。それではいけないということで、2年目から月に1回の例会に変わりましたが……

強く意識していたことは、委員会中心の活動を特に大事にしようと考えておりました。そして、各委員会ともサロン化しないこと及び現実の厳しさを見つめた真剣な模索の場にする意思がありました。具体的に何をやるかと考えると考えるんですけど、まず飲むということが多かったですね。(笑)

◆現役メンバーに一言

年齢制限のある団体は基本的に宿命があります。それは将来に対する責任を強く持たなければならないことです。自分自身も鍛えなくてはならないし、将来に対して天望ももたなくてはならない。わいわいがやがやの中でもメリハリをつけてきちっと押さえて欲しい。時には酒を飲んで爆発することも大切ですが、各会員が将来ビジョンをしっかり持ち、そのビジョンをどんどんぶつけていくことを大切にしてください。

(後記)

永瀬OBの話をお聞きして、過去に学び、未来に対する方針を打ち出し、現在自己の研鑽に努め英知を養う努力をする。そのことが、今我々会員一人ひとりに問われていることなのではなからうか。

最後になりましたが永瀬OBにおかれましては、お忙しい中インタビューに対応していただき感謝申し上げます。

(広報: 中本孝夫)





「新入会員オリエンテーション開催」

去る8月9日(木)、ホールサムインかいけにて平成13年度第1回新入会員オリエンテーションが開催された。当日はひどい土砂降りであったにもかかわらず、岩田会長以下、役員・講師・オリエンテーション対象者、および広報取材担当者2名も含めた総勢30名の出席があった。

高田Newカマーズ委員長の司会のもとで講義は進行していった。まず始めに久古総務委員長から「会規・会則」について、改正点を中心に説明があった。山本(良)監事からは「中央会の歩み」について、当会発足のいきさつや機関紙ハンサム発刊の流れなどを、各周年の記念誌を用いての説明があった。堀田(收)監事からは「組織と選挙」について、親会との関わりや青年経済団

体として避けて通ることのできない選挙との関わりや説明があった。徳中会員からは「組織内での上下関係」についての説明があった。最後に市位監事から、「同好会」の紹介に加え、事務局との関わりや共済についての説明があった。そして当初のカリキュラムにはなかったものの、中津尾会員からは「中央会の思い出」をご自身の16年間の経験に則してお話いただいた。

取材で同席したオリエンテーションではあったが、あらためて初心を思い出させられる講義内容であった。入会したての会員とNewカマーズを卒業した対象者とは立場や状況の違いこそあれ、最後には一様に同じ思いを共有できたことと考える。新入会員の方々には、年齢や経験・所属企業での立場や役職を越えた部分で、今後の中央会活動の指針としていただきたいと願っている。

(広報：尼子 健)

新入会員オリエンテーションについて

Newカマーズ委員会 森脇 哲雄

今回のオリエンテーションは、6題目を5人の先輩方が実体験を交えて説明していただくという、非常に分かり易い形で行っていただきました。時折笑いをとりながらの先輩方の熱弁に聞き入り、あっという間の90分でした。

中でも印象的だったのが「新入会員としての心構え」を説明していただいた徳中さんと、講義終了後「自分が新入会員の頃」と題して語って下さった中津尾さんの言葉でした。

「新入会員だからといって気負うことはない。言いたい事を言って、やりたい事をやればよい。ただし謙虚な気持ちを常にわすれないように。」このメッセージをむねに刻み、今後の中央会活動を楽しんでいきたいと思えます。最後になりますが、お忙しい中説明をいただいた先輩方、そして何より素晴らしい会を企画していただいた高田委員長、本当にありがとうございました。

Newカマーズ委員会 後藤 平良

素晴らしい諸先輩方が、講師として我々新入会員のために、中央会の歩みや歴史、また今まで中央会の一員としてどのように思い、過ごされてきたのかという興味深いお話をしていただいた。私自身はもちろん、参加された他の会員の方々も非常に勉強になり、考えることができた一日ではなかったのではないかと感じた。

ただ、非常に難しいこととは思いますが、こういう素晴らしい時間を入会前に経験できれば、よりスムーズに中央会という団体に馴染めるのではないかと思います。

知らないと損する「IP」わあーん

米国におけるITバブル崩壊の余波は一部投資家や関連企業には深刻な影響を与えていますが、こと日常生活や事業活動におけるITはその役目を終えるどころかますますその利便性や重要性を我々に再認識させています。

ところで、今日の高度情報化社会においてITに比肩するくらいに重要になってきているIPという言葉をご存じですか？略語は勝手に作ったものですが、正式には「Intellectual Property」と表記します。つまり、IPとは「知的所有権」を指します。読者諸兄の中で「知的所有権」という言葉を耳にしたことがあっても、その内容まで説明できる方は少ないのではないのでしょうか？

「知的所有権」とは、発明・デザイン・小説など精神的創造努力の結果としての知的成果物を保護する権利の総称です。物権や債権と並ぶ財産権で、知的成果という目に見えない財産(無体財産)に対する権利です。産業の振興を目指す工業所有権(特許・実用新案・意匠・商標)、文化の発展を目指す著作権、およびその他の権利に大別できます。

従来の概念では、「知的所有権」は製造業だけに係るものとして受け取られていましたが、近年、ビジネスモデル特許(ネットにおける逆オークション、トヨタのかんばん方式など)の出現によってその概念も覆されています。今や「知的所有権」はサービス業も含めた全業種に密接に係る事柄なのです。

「知的所有権」を管轄する特許庁では特許電子図書館というホームページ(<http://www.jpo.go.jp/indexj.htm>)を開設しています。これは明治以来の実に4,500万件以上の工業所有権情報を網羅したもので、誰でも無料で検索することができます。特許電子図書館では、

I. アイディアがひらめいたが…

新規登録できるかもしくは既存の権利を侵害しないかを調べたい。

II. すごいデザインをおもいついたが…

似たようなデザインがあるかないかを調べたい。

III. 新商品・新サービスのネーミングを考えついたが…

既に他社で使われていないかを調べたい。

などというときにアクセスするときと答えが見つかります！

「知的所有権」は、自ら(自社)の権利を世の中に主張することであり、他人(他社)に自らの(自社)の権利を明示することなのです。自由主義国家日本では「知っている」と「知らない」ことは共に個人の責任において自由選択できますが、そのふたつは実は権利であって、そこには必ず義務が発生します。つまり、他人(他社)の権利を無意識のうちに侵害していたとしても「知らなかった。」などという言い訳は通用しないのです。

インターネットの爆発的普及に伴って時空という概念が喪失されている昨今、「知的所有権」に意識を向けることは、厳しい経済環境の中で自社を発展させる矛と自社を守る盾を同時に持つことを意味します。つまり、今後の経済活動において「ITの活用とIPの理解」が勝ち組に残る必須条件であるとも言えるでしょう。

来月以降、もっと深い「知的所有権」の世界へ皆さんをご案内いたします。

(広報：植田寿雄)

広報担当例会では知的所有権についての講演も企画中

8月度委員会報告

きずな委員会

平成13年8月7日(火) 於：米子食品会館 出席者/13名
内容/ 企画・商品・開発部門チームと人材育成・意識改革部門チームに分かれ、各会員の社内の女性の現状と問題や来月、再来月の講師にどのような先生をお招きするのかを検討。

*企画・商品・開発部門チーム

我々は今後「女性でも出来る仕事」を考えるのではなく「女性だから出来る仕事」を考え、一年間の勉強の上、「女性が活用できたらどの様に良いのか」を理解し、又、「活用できたらこんなに良いんだ」と納得できる結果を出したいと思う。委員会の講師には一般企業から招く予定。

*人材育成・意識改革チーム

管理職になりたいという女性は少なく、ただ腰掛け程度に働いている女性が多く見られる。それは会社の体制、男性社員の女性社員への対応の仕方が少なからずある様である。こういった所の意識改革をし、何らかの結果を出していきたい。講師には、生保の教育担当者、看護婦長、パートの教育担当等の案が出ており現在検討中。

情報メディア委員会

平成13年8月8日(水) 於：ホールサムイン皆生 出席者/19名
内容/ TSCインターネット利用の方向について

1. ドメイン取得について

【ドメイン】とはインターネット上における、いわゆる「屋号」のようなもので、これを独自に持つことによって外部から認知されやすく、また広がりのあるサイト運営、例えば、中部・東部・OBへのサイト開放が可能になる等の様々なメリットを生み出す。

2. 公式サイトと協業サイトの融合化

現在運営されているTSCのサイトは、【公式ページ】と【協業サイト】の各々独立した2サイトにより構成されているが、これらを上記独自ドメインにより一体化させ融合する必要がある。

3. メールングリスト(ML)

既に、西中としてのMLはスタートしているが、利便性を追及し、更に多機能化させるべき提案をしていきたい。

4. 講師先生講義

9月例会にて講師先生としてお招きする予定の(南)デジタルネットプラン長井英夫代表取締役にお越しいただき、著書である「ゲゲゲの鬼太郎IT講習」のご紹介をいただいた。

モラル委員会

平成13年8月7日(火) 於：米子食品会館 出席者/9名
内容/ モラル委員会年間計画の見直しについて協議決定した。

経営委員会

平成13年8月8日(水) 於：米子食品会館 出席者/15名
内容/ 講師として第25期卒会の宮廻裕和氏(南)ライトスタッフ代表取締役)をお招きし、ご講演いただいた。

ご自身の経営の原則と理念について。
・商売は、お客様がいるから成り立っているわけで、常にお客様の為に最善を尽す。
・売上は、お客様の喜びが貨幣として換算されている。喜んで頂けないなら売上は落ちる。
・経営を難しく考えず単純化してみる。利益=収入-支出
・収支のバランスを常にチェックし、例え売上が半減しても経営できる体質を作る。
・今の時代、決断すべき時はする。余裕をもって様子を見ている時代ではない。

中央会には多くの出会いとチャンスがある。会員同志、深い繋がりを持つような関係を築いて欲しいと、自らの体験を基に熱く語られた。

Newカマーズ委員会

平成13年8月9日(木) 於：ホールサムイン皆生 出席者/19名
内容/ 新入会員オリエンテーション

今回会長・副会長他・岡本副会長・市位監事・堀田監事・久古委員長に加え2000年7月以降の新入会員を迎えてのオリエンテーションを実施した。

- ①組織について(堀田監事)
- ②中央会の歩み(山本監事)
- ③会員会則・規約(久古委員長)
- ④新入会員としての心構え(徳中会員)
- ⑤事務局の役割と同好会活動(市位監事)

政治行政委員会

平成13年8月7日(火) 於：米子食品会館 出席者/11名
内容/ ①各会員の会社概要を含む自己紹介
②平成11年度政治行政委員会委員長石指智会員による前年度迄の委員会活動についての講演
内容：市町村合併への取り組み・関りと現状

広報委員会

平成13年8月6日(月) 於：デリラウジ真夢 出席者/12名
内容/ ①ハンサム9月号編集打合せ
②年間テーマの小冊子化について協議
③10月例会について協議

総務委員会

平成13年8月8日(水) 於：ホールサムイン皆生 出席者/11名
内容/ ①「7月総務懇親会反省」
②「新入会員パンフレット作成打合せ」
③「10月OB交流会の打合せ」

第7回オールジャパンジュニアトライアスロンin岸本

恒例となった「オールジャパンジュニアトライアスロンin岸本」が、8月19日、岸本町総合スポーツ公園で開催され、スイム・バイク・ランに小学生を中心としたちびっこ選手達が競いあった。

7回目を迎える今年は、猛暑の中総勢266名が参加。中央会からは、OBも含め20名以上のボランティア参加があり、熱い戦いを繰り広げる選手達に力強いサポートを行なった。

この大会は、「ジュニア」とは言っても全くあなどれないもので、選手達の表情は「皆生大会」のトライアスリート達と変わることがなく真剣そのもので、日に焼けた姿でバイクを駆る躍動感などは大人と見間違ふほどであった。

大会は選手全員が見事完走し、その中には田中康裕会員や高橋洋志会員のお子様の勇姿もあった。

選手、家族の方、大会をサポートされた方など、それぞれが「心地よい充実感」を味わった一日だった。

ボランティア参加された会員の方、OBの方お疲れ様でした。

(広報：植田寿雄)

